

常林院年中行事予定

- 一月二日 修正会（初参り）
一月七日 観音講初参り
三月八日 涅槃会、会計報告
三月二十日 春彼岸会（予定）
四月八日 花祭り
八月一〜十四日 棚経
八月七日前後 墓回向
八月十六日 盆施餓鬼
八月下旬 地藏盆
九月二十三日 秋彼岸会（予定）
十一月十四日 お十夜会
- 二月十四〜十五日 念仏行道会
四月二十二〜二十五日 御忌会
五月二〜六日 授戒会
八月一〜三日 緑蔭法話
十一月上旬 紅葉ライトアップ
十一月九日 寺宝展開幕
西山上人降誕会

本山永観堂年中行事予定

- 二月十四〜十五日 念仏行道会
四月二十二〜二十五日 御忌会
五月二〜六日 授戒会
八月一〜三日 緑蔭法話
十一月上旬 紅葉ライトアップ
十一月九日 寺宝展開幕
西山上人降誕会

雑記

平成二十一年が始まりました。今年もよろしくお願い致します。

毎年、年末のクリスマスの時期になると、日本人の宗教に対する柔軟さを思います。盆彼岸は墓参り、十二月になると仏壇の横にクリスマスツリーを飾り、年始には神社へ初詣に参る。悪く見ると信仰心がなく、善く見ると他宗教に寛大に見えます。



一方、世界にはいろんな宗教があり、他宗教を徹底的に排除する宗教もあります。ニュースで伝えられる宗教戦争や自爆テロなど悲しい報道を聞くと、宗教の恐ろしい面を考えさせられます。

日本人の他宗教をすんなり受け入れて、生活の中で共存させている姿というのは、もしかすると、実は世界に誇れる姿なのではないかと、最近思うようになってきました。

平成二十一年二月一日発行
浄土宗西山禅林寺派
常林院

月影



第 27 号

さけの つみ そうろう
酒呑むは罪にて 候か。

こたえ
答、まことには

の
呑むべくもなければ、

よ
この世のならい。

ほう
法

ねん
然



この世のならい

生活にかかわる問題について、法然上人が質問に答えています。

問「お酒を飲むことは罪になるでしょうか。」

答「本当は、飲まないにこしたことはないけれども、お酒を飲むのも、この世のならいです。」

「この世のならい」とは、世の中のならわし、習慣、つきあい、といった意味です。

仏教では、お酒を飲むことを戒めています。仕事上のおつきあいや、祝いの席など、どうしてもお酒を飲む場面がやってきます。

法然上人は「飲まないにこしたことはない」と言いつつ、「お酒を飲むことも、この世のならいです」と言っておられます。

生活していく上で、戒めを守ることも大切だけれども、人と人のおつきあいというものも大切にしなければいとおっしゃっているのかもしれない。

お経の話

何が書いてあるの？

浄土宗西山勤行式 (赤本) 解説

肆誓偈 (三)

神力演大光

普照無際土

消除三垢冥

広済衆厄難

開彼智慧眼

滅此昏盲闇

閉塞諸惡道

通達善趣門

三垢・貪り、怒り、愚かきの三つの煩惱こと

で、三毒とも言い、煩惱の基本となる。

智慧・般若 (はんにゃ) ともいう。知性の意

味のほかに、宗教的な目覚め、聖なる

ものに心を開くこと。

悪道・悪業の結果、行かねばならない苦しみの

世界のこと。地獄、餓鬼、修羅など。

(訳)

仏は、はかりしれない力で大いなる光を放ち、果てしない国土をすみずみまで照らし、三つの垢 (貪り・怒り・愚かき) の闇を取り除いて、多くの厄難に苦しむ者をお救いになり、彼らの智慧の眼を開いてその暗闇をなくし、多くの悪しき世界を閉ざして、善き世界へと導く。

悪道は、人間が悪いことをした結果、行かねばならない世界のこと、

地獄 (じごく)・餓鬼 (がき)・畜生 (ちくしよう)・修羅 (しゆら)・人 (にん)・天 (てん)

の六つの世界があります。これを六道 (ろくどう) と言ひ、人間はこの六道を輪廻 (りんね) すると

言われています。このことから、六道参りや六地藏の信仰が始まったと思われます。

この六道で注目すべきところは、人間界も天上界も悪道の一つに考えられていることです。

古代インド人にとって、人間に生まれ変わらな

いことが、大きな願いだったようです。

あれこれ仏教用語

善哉（ぜんざい）

ぜんざいは、ご存知の通り、つぶしあんのしるこに、お餅をいれた食べ物のことです。

しかし、もともとは相手をほめたたえる言葉でした。インドの古い言葉、サンスクリット語で「サードゥー」と言います。善き哉（よきかな）、すばらしいという意味で、インドでは今でも会話に使われているそうです。この言葉が、なぜ食べ物の名前になったのかはよく分かりませんが、一休禪師がぜんざいを食べて、「善き哉（よきかな）」と言われたので、善哉（ぜんざい）になったという説があります。



仏事と作法

問）「南無阿弥陀仏」とは、どういう意味があるのですか？

答）浄土宗系の宗派では、「南無阿弥陀仏」とお念仏を唱えます。

「南無」とは「おまかせします」という意味です。したがって、「南無阿弥陀仏」とは「阿弥陀仏におまかせします。」という意味になります。

では、何を阿弥陀仏におまかせするのかといえば、自分の寿命が尽きた後のことを、すべて阿弥陀仏におまかせするのです。

浄土宗の教えというのは、「南無阿弥陀仏」と、

お念仏を唱えると、誰でも極楽浄土へ往生できるといいう教えです。

私たちは、厳しい修行をすることなく、ただ南無阿弥陀仏とお念仏を唱えるだけで、寿命が尽きたとき、阿弥陀仏がすぐさま迎えに来てくださり、極楽浄土へ連れて行っていただけるという教えなのです。

お念仏には、私の命は、すべて阿弥陀様におまかせします、という意味がこめられているのです。

